いつものあなたにいて欲しい

竹中　ラーメン屋の大将。

菊田　ラーメン屋の従業員。竹中の一番弟子。

小島　ラーメン屋の従業員。菊田と同じく竹中の弟子。

牧野　一流企業のサラリーマン。仕事が出来る。

ラーメン屋。ちょっと所在なさそうな大将の竹中。
両脇に腕組みをしたポーズの菊田と小島

菊田　らっしゃせー！
小島　らっしゃっせーい！
菊田　開いてる席、どこでもどうぞ！
小島　ってる席どーぞー！
菊田　（食券を受け取る）ラーメン一丁！
小島　ッメン、っちょー！
菊田　大将！メン入りやす！
竹中　ん。
小島　大将！・・・スーップぁいりゃす！
竹中　ん。・・・お前たち、

客が帰る。

菊田　お客様お帰りでーす！
菊・小　ありがたぁーござーっす！
竹中　・・・お前たちさ、
菊田　へい、ラーメンお待ち！
小島　へいへい、ラーメン一丁ーお待ちー！
竹中　ちょっと、いいか？
菊田　何ですか大将！
小島　どうしたんすか、大将ー！
菊田　大将！
小島　大将！
竹中　うん、うん。・・・こういうの、やめにしねぇか？
菊田　こういうの・・・？
小島　・・・どういうの？
竹中　つまり、こういう・・・威勢がいいのをさ。
菊田　えぇ！？どういう事ですか大将！
小島　何がダメなんすか大将ー！
菊田　大将！
小島　大将！

菊田　大将！
小島　大将！
竹中　うん、うん、うん。・・・あのな菊田、小島。今までウチの店は、味一筋、客に媚びない硬派なラーメン屋としてやってきた。
菊田　そうですよ！極・黒龍ラーメン嵐といえば、頑ななこだわりで作る「麺固め・接客バリカタ」のラーメン屋じゃないですか！
小島　「スープは豚骨、私語にはゲンコツ」それが極・黒龍ラーメン嵐の掟じゃないっすか！
竹中　確かに。確かにうちの店といえば接客バリカタと言われる店だった。でもなぁ・・・もうそろそろ、そういうのはいいんじゃねぇか？そういうのは、卒業するべきなんじゃねぇかな。
菊田　何でですか大将！急にどうしちまったんですか大将！
小島　大将ー！
菊田　大将！
小島　大将！
菊田　大将！
小島　大将！
竹中　うん、うん、止めろ！そのちょっとした神輿みたいになるの止めろ。・・・まぁ何というかな、俺も思うところあってな。
菊田　思うところ？
竹中　うん・・・この間、うちの息子が来たろ。
菊田　あぁ、奥さんと来てましたね。
小島　年長さんになったんでしたっけ？
竹中　うん。その息子がな・・・「パパの店怖い」って・・・。
菊・小　あぁー・・・。
三人　・・・。
竹中　だからな、そういう威勢のいい、いや、恐怖感を与えるような接客はやめにしてぇと思う。
菊田　いや、でも！急にそんな事言われても、俺たちずっとこれでやってきたんで。なぁ？
小島　全くだ。どういう接客したらいいかわかりませんぜ大将！大将ー！
竹中　（小島を制して）わかってるよ。正直にいえば俺もどうしたらこの店が怖くなくなるかわからねぇ。だからな、助っ人呼んできた。
菊田　助っ人？

竹中　入ってください。

牧野が入ってくる。

牧野　初めまして。株式会社サンリオ営業部、牧野です。

菊田　サンリオ！？あのサンリオ！？

牧野　あのサンリオです。弊社のキティがいつもお世話になっております。

菊田　いうほどキティにはお世話になってませんが・・・。

竹中　こちら、サンリオの牧野さん。どうしたら怖くないラーメン屋が出来るか、ずっと考えたが全くわからねぇ。完全に追い込まれた俺が、最終的にたどり着いた答えが、サンリオだった。

菊田　追い込まれすぎちゃあいませんか？

竹中　今後はこの牧野さんの助けを借りて、怖くないラーメン屋を目指そうと思う。

小島　いや、助けを借りるって具体的には？

牧野　はい。私たちが提案するのはまず、この極・黒龍ラーメン嵐のキャラクターですね。

菊田　キャラクター？

牧野　はい。「たいしょーちゃん」という名前で色々な大将を作るシリーズを検討してます。「寿司屋のたいしょーちゃん」ですとか、「八百屋のたいしょーちゃん」ですとか。そのうちの一つがこちらのお店の大将をモチーフにした「ラーメン屋のたいしょーちゃん」ですね。

菊田　名前のゆるさがそれっぽい。

牧野　店内では竹中さんにもこのたいしょーちゃんの服を着ていただきまして、所謂「実写版のたいしょーちゃん」になっていただきます。

竹中　なるほど・・・。

牧野　接客の方もですね、たいしょーちゃんのイメージに合わせまして、「いらっしゃいませ」ではなく「たいしょーちゃんのラーメン屋さんに、ようこそ♡」という感じになります。

小島　大将・・・？

牧野　「たいしょーちゃんの」

小島　大将、ちゃんの！

牧野　「たいしょーちゃんの」

小島　たい将ちゃんのー、

牧野　「ラーメン屋さんに、ようこそ♡」
小島　らーメン屋サんに、ようこそ！
牧野　「ラーメン屋さんに、ようこそ♡」膝曲げてください。竹中さんそしたら、「はーい。美味しい、ラーメンは、いーかーが？」でお願いします。
竹中　はい。「はーい。美味しい」「はーい。」
小島　「たいしょーちゃんのラーメン屋さんに、ようこそ」
竹中　「はーい。美味しい、ラーメンは、いーかーが？」
菊田　止めろーう！
竹中　・・・菊田？
牧野　どうしました？・・・あ、大丈夫ですよ。慣れるまではウチのアミューズメント部門のダンサーがサポートでダンスしますので、
菊田　止めろ止めろぅ！いいか、ウチは味一筋、客に媚びないラーメン屋、極・黒龍らーめん嵐なんだ。そんな小手先の可愛さで媚びる店じゃねぇんだよ！
小島　菊田・・・。
菊田　大将はな、誰に何を言われようと、自分を信じて、拘り抜いてこのラーメンを作ったんだ。例え自分の子供に何を言われても、大将は自分のやり方を曲げねぇ。だからこそ生まれたのが麺固め・接客バリカタの極・黒龍らーめん嵐だ。そうですよね大将！
竹中　・・・。
菊田　お前の言うそんなふにゃふにゃした接客じゃあ、麺も柔らかくなりすぎちまわぁ！
牧野　いやいや、私どもは、
菊田　小島！・・・お客様お帰りでーす！
小島　・・・ありがたぁーござーっす！

小島が牧野を店から押し出す。

牧野　いや、ちょっと！あの！
小島　ありがたぁーござーした！（扉を閉める）
竹中　・・・。
菊田　大将、息子さんに怖いって言われてショックなのは判ります。でもそれで、やり方変えちまうのは大将らしくないですよ。ねぇ大将。そう

じゃないですか大将！

小島　大将！大将ー！

菊田　大将！

小島　大将！

菊田　大将！

小島　大将！

菊田　大将！

小島　大将！

竹中が二人を制する。

竹中　止めろ！・・・確かに、子供に気を遣って縮こまってるのは俺らしくねぇかもしれねぇな。・・・菊田、小島。さっきの話は無しだ。今まで通り・・・俺について来てくれるか？

菊・小　はい！

竹中　うるせぇ馬鹿野郎！いつまでもくっちゃべってんじゃねぇぞクズどもが！

菊田　お、いつもの調子に、なってきましたね！

竹中　わかったような口きいてんじゃねぇぞ、喧嘩売ってんのかこの野郎。

客が来る。

三人　らっしゃせー！

竹中　なんだ？ラーメンか？座れこの野郎。座れ。

ゆっくり暗転。